

寒地道路研究グループ勉強会を開催しました

寒地道路研究グループ

令和元年7月30日、寒地土木研究所講堂において、寒地道路研究グループ勉強会を開催し、名誉研究監である浅野基樹氏から「私の寒地道路交通研究－起承転結－」と題し、ご講演いただきました（写真－1）。

浅野氏は、昭和56年に北海道開発庁に入庁し、北海道開発局の本局および開発建設部、当研究所の前身である土木試験所、経済企画庁、外務省等でご活躍されました。平成12年からは当研究所において交通研究室長、技術開発調整監、寒地道路研究グループ長、研究調整監を歴任し、当研究所の独立行政法人化、研究の計画立案と推進、中長期計画の策定・推進、人材育成等にご尽力されました。平成31年3月31日に定年退職され、4月1日からは名誉研究監として引き続き当研究所を支援していただくこととなりました。この度はこれを機に、北海道開発局を始めとする行政機関での経験、また、当研究所で培った寒地土木技術と今後についてお話していただく勉強会を企画したものです。

本勉強会には、北海道開発局および当研究所の職員56名が参加し、講演を熱心に聴講していました（写真－2）。以下に、講演の概略を記述します。

当研究所が独立行政法人化した際、組織に与えられたミッション（官が直接に実施する必要がないもののうち、民に委ねると実施されない研究開発に取り組む）を常に考えながら研究テーマ（冬期道路・道路構造・道路事業評価・バリアフリー・交通安全）の立案・計画に色々ご苦労されたことを述べられました。また、冬期路面管理に関わる研究のひとつとして、スパイクタイヤ規制の政策評価を研究され、車粉解消や騒音軽減等の便益と、つるつる路面の出現による走行時間や交通事故の増加等による費用増加、規制後の市民意識の変化等についてお話されました。そして、ご自身が立案したロジックモデルにより、脱スパイクタイヤ政策の評価を行ったことを紹介するとともに、当研究所の次期中期計画立案の際にも、政策のプログラム評価ツールであるロジックモデルを他の研究テーマ検討も含め幅広く活用することをご提案されました。最後に、今年5月に自家用車による日本縦断旅行をしてきた経験から、北海道の道路整備の今後の課題等につ

いて私見をお話しされました。質疑の時間では、多くの質問に丁寧に回答されました（写真－3）。



写真－1 講師の浅野氏



写真－2 勉強会会場の様子



写真－3 勉強会参加者からの質問の様子

（文責：寒地交通チーム 徳永ロベルト）